

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○ 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念や日頃のケアの中で「その人らしさ」や「暮らし」を大切にすることを念頭に置いている。「馴染みの暮らし」の継続を大切に考えている。	○	設立時の理念の周知を徹底してきたが地域への積極的な参加を理念として反映させていくことも検討していきたいと思っている。
2	○ 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日常的な入居者方との事例を通して当ホームの理念とリンクさせて、スタッフと話すようにして理念の実現に取り組んでいる。		
3	○ 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	入居申込みや、入居時、見学時には理念を説明して書面を配布するようにしている。地域の方々にも講演会等を通じて話すようにしている。		
2. 地域との支えあい				
4	○ 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	地域の市民センターや公民館で事業所や認知症の講演会をしたり、催しには地域の方々への案内を出して参加していただいている。	○	講演活動や見学会等を続けて「施設」に対する偏見をなくして、日常的に立ち入りやすいように活動を積極的に行っていきたい。
5	○ 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	「老後の暮らしと認知症について」と題して地域の方々への講演活動を実施し、また、地域からの依頼に応えるようにしている。行事等は地域の方々への参加を呼びかけ促している。	○	運営推進会議や地域講演活動を通じて地域との距離を縮めていきたい。

グループホーム 倫尚園

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	法人内の事業所と協力して、地域の講演会のプログラムを作成して介護保護や緊急時の対応の仕方等、地域に対しての取り組みを行っている。	○	グループホームとして、地域での在宅介護、認知症ケアでの相談がもっと気軽にできるようもっと地域での活動を続けていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を事業所内で協力して実施することにより、日頃のケアが「慣れ」によりマンネリになっていないか振り返を行い、ケアの改善とグループホームのあり方を話し合うように取り組んでいる。	○	改善に於いては、もっと法人と歩み寄り、想いのズレをなくしていきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、毎回提供しているサービスの内容を説明して、メンバーからの意見を聴くようにしている。面会簿のあり方等、指導もいただき、書式変更も行った。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護サービス相談員派遣事業や認知症関連の研修での実習の受入れ等、市との連携を図っている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	法人内や外部での研修にできるだけ参加して学ぶ機会を持つようにしている。	○	現在は該当される方はいないが、実際に制度を利用されている事業所さんからの情報収集等いつでもすぐに活用できるよう準備を行っていきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内や外部のグループホームの方々との合同勉強会等でスタッフの自己学習や発表を通じて、意識を持つようにしている。		

グループホーム 倫尚園

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○ 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分に説明をするようにし、質疑をしている。 我々に納得いかない時は介護保険課や国保連への申立もできることも説明している。		
13	○ 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	法人として月1回のオンブズパーソン派遣と介護サービス相談派遣事業の日程のポスターをはったりして外部者へも意見を表せるようにしている。		
14	○ 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時には生活状況の説明をするようにしており、出納帳の確認もしていただくようにしている。職員の異動に関しての報告は実施できていない。	○	面会が少ない御家族への報告を文章や電話で定期的に行うように徹底して取り組んでいきたい。
15	○ 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には必ず会話をする機会をつくっている。また介護サービス相談派遣事業の訪問日程のポスターをはり、外部の方へも意見を表せるように努めている。		
16	○ 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関しては、法人と職場との距離が開いており、意見の反映はできていないのが現実である。また、そのような機会もない状態である。	○	もっと法人に歩み寄り、職場に対する理解が得られるようにしていきたいが具体的な内容はまだ煮詰まっていない。
17	○ 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	入居者の状況に合わせて、6パターンのローテーションを組み、柔軟に対応できるようにしている。		
18	○ 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	移動に関しては法人が決定するものでなかなか理解がないのが現実である。代わる場合はペアを組んで馴染みのスタッフと慣れるまでは一緒に行動するようにしている。		

グループホーム 倫尚園

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○ 人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるように配慮している。	募集、採用に於いては、法人の事務局が全て行っており、管理者には把握できない。事業所内では勤務について、できるだけスタッフと同意のもと働きやすいように変更等柔軟に対応するようにしている。		
20	○ 人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。	法人内の研修等で人権については教育をしている。場所でもケース会議等を通じて人権について話し合うようにしている。		
21	○ 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で研修計画を立て研修を実施している。また可能であれば外部の研修も受講するようにしている。事業所内では外部のグループホームの方々と合同勉強会や自己学習の機会をつくるようにしている。	○	もっと外部での研修が受講できるように勤務調整や人員の確保を行いたい。
22	○ 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部のグループホームの方々と合同勉強会を企画して、ネットワークづくりや意見交換等をして質の向上と事業所内での抱え込みの解消に取り組んでいる。		
23	○ 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	外部のグループホームの方々との意見交換はストレスの軽減につながっている。またスタッフの状況をみて対応時の交代や休暇が十分にとれるよう勤務表の変更等をしている。	○	スタッフのストレスケアを管理者としてもっと学び、ストレスの緩和、解消につなげていきたい。

グループホーム 倫尚園

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	スタッフの実績をきちんと評価する指標がない。合同勉強会等でスタッフの自信につながるように努めたり、できるだけスタッフと会話をする時間をつくり想いを知るようにはしている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前の面接時には自宅訪問やグループホームへの来園を行うようにしてシートにそって話を聴くようにしている。入居後は早期に馴染みを築くよう集中的に関わりを持つことに努めている。		
26	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居相談や申込みの際に現状の聴きとりや面接時には御家族の意向も聴くようにしている。		
27	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に当ホームでの早急の受入れが困難で、すぐにサービス利用が必要と判断される場合は居宅の事業所や他グループホームの見学をすすめている。また在宅介護での対応相談にも応じている。		
28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	馴染み作りを目的として体験入居をすすめるようにし、御家族の協力を得ながら環境変更へのダメージを最小限にするように努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	理念にも挙げているが、介護者としてではなく「暮らしのパートナー」として我々は共に生活することを意識、実践するようスタッフの指導を行っている。全スタッフとは言えないが、ケアの姿勢からそのことを理解しているスタッフも多く見受けられる。	○	職場での人材育成やグループホームのあり方について自施設、他施設の方々とともに学び合う機会を作っていこうと思う。

グループホーム 倫尚園

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	○ 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会や行事等では必ず御家族には情報の提供と御本人の状況の説明、今後予測されることやケアの方向性を話し一緒に考えていくことを伝えるようにしている。		
31	○ 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	御家族の御本人への想いを大切にし、状況によっては距離をあけていただいたり適度な距離感も必要ではないかと考えて御家族へも支援をしている。		
32	○ 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	毎月のお寺参り、お墓参り、カラオケスナック、御本人からの訪問の支援等、可能な限り希望にそえるよう御家族とも協議して支援している。		
33	○ 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	食事の座席や馴染み同士での入浴の譲り合い等、入居者同士の関係性や関わりには十分配慮して、きっかけ作りを支援している。		
34	○ 関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去時には御家族とも一緒に転居先を見学したり、転居後も面接や誕生日のお祝い等関係の継続に努めている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
35	○ 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントをする際、御本人、御家族には意向の確認をするようにし入居時には生活歴チャートの記入も依頼して「その人らしさ」を追及している。認知症の人の代弁者としての意識を忘れずにスタッフ本位にならないよう努めている。	○	面会が少ない御家族からの情報や意向の確認がまだ十分とは言えない。御家族への働きかけも積極的に行い情報の提供や収集に努めていきたい。

グループホーム 倫尚園

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
36	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴チャートの活用や日常の会話の中で今までの暮らしの把握に努めている。		
37	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日常的にスタッフと御本人の過ごし方については協議するようにしている。またスタッフが手を出しすぎないようにICFの視点等勉強会をして入居者と一緒に取り組めるよう努めている。	○	「待つ」ことや「一緒にする」ことの大切さをもっとスタッフと話し合うことも大切だと感じているが、ストレスケアにも管理者として取り組みたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントに於いて、御本人、御家族は当然だが現場スタッフの視点も大切にして情報収集を行っている。医療的な面での支援が必要な方は医療関係者の意見を聴きケア手順等の確認も行っている。	○	ケアスタッフがアセスメントの段階から積極的に関わられるしくみが必要だと感じる。ケアマネジメントサイクルをスタッフとともに行えると意識や視点の統一も図りやすいのではないかなと思う。
39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	随時の見直しが遅れている。実際のケア内容は変更しているが介護計画の作成がおいついていないのが現状である。		
40	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録は細かく状況が示されていると思う。またカードックスを利用して介護計画を参照しながら記録できるようにしている。また個別なケア手順書も作成している。	○	スタッフがもっている情報をもとに個別介護手順書を作成しているが、より多くの方の手順書の作成に取り組みたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	御本人、御家族の希望に可能な限り対応できるよう外出や受診を支援している。また外出や面会支援時等の付き添いも行なうよう支援している。		

グループホーム 倫尚園

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	行事の時にはボランティアを依頼したり、複合施設である為、小学校や幼稚園ボランティアの慰問もあり、売店や理美容の訪問もある。市民センターのカラオケ教室に参加もしていた。		
43	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	在宅復帰された方は前から利用していた居宅のケアマネジャーと協力をしてサービス料をされている。また必要に応じて法人内の介護保険外のヘルパーの活用も検討したことがある。		
44	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議以外は地域包括支援センターとの関わりがない。該当する入居者の方が現在はいないので本当に関わりがうすいのが現状である。	○	地域での活動を通じて、もっと気軽に地域包括支援センターに立ち寄れるよう関係作りに努めたい。
45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にはかかりつけ医の希望を必ず確認するようにして強安はしていない。入院等、継続的な治療が必要な時は御家族とも相談してかかりつけの変更も行っている。		
46	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力医療機関である精神科の先生とは外来日以外でも随時相談に応じてくださる等の関係作りはできている。		
47	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	複合施設内に看護職員が勤務しており、相談や対応も依頼できるようになっている。		

グループホーム 倫尚園

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院された場合にはスタッフは頻回に面会に訪問して御家族及び病院関係者との情報交換を行っている。また病院関係者には個人のケア情報を提供して一貫したケアの提供ができるよう努めている。		
49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化、終末期における医療との連携は不十分な面がある。グループホームでの生活が継続できるようには協力できているが終末期の方針や対応は困難な状態である。		
50	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	終末期での対応は実施できていないが重度の方へのグループホームでの生活が可能な限り継続できるようチームとして支援に取り組んでいる。		
51	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	病院の退院前には御家族、病院関係者と協議して試験、外出、外泊を繰り返してダメージを最小限にするようにしている。また施設に住み替えの際は、御家族と一緒に見学に行き、雰囲気等考慮して住み替えの場を決めるように努めている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重				
52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーに関しては理念でもふれており、スタッフ視点での声かけや対応をしないように心がけている。個人情報の取り扱いに於いても誓約書等を取り交わして保護に努めている。		

グループホーム 倫尚園

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
53	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日常生活でできるだけ簡単な選択ができる場面をつくるように心がけている。単語を短く区切って説明する等、能力に応じた対応をするようにして、無理強いをしないケアの支援を心がけている。		
54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	タイムスケジュールを作らず、御本人で生活を定めることができる支援に努めている。「買い物に行きたい」「外にでたい」「夜風呂に入りたい」等、希望にそっての支援ができるよう努めている。	○	スタッフ視点や感情をおさえきれずに押し付けてしまったり、相手に合わせることにストレスを感じてしまうスタッフへのケアを管理者として学び実施していきたい。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	衣類の選択も自分でできるような支援に心がけている。スタッフ価値でのおしゃれではなく、その人らしさを大切にしたいおしゃれを支援するようにしている。理美容は望む店に行くことも可能となっている。		
56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事に関しては、できるだけ役割の提供に努め成功体験ができるようにしている。押し付けではなく声掛けや動機付けにも工夫をして参加できるよう努めている。		
57	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	飲酒も晩酌も眠前等、日常的に楽しめるようにしている。おやつも代替品を準備したり、好みを選べるような場面を提供するように努めている。		
58	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を作成して目安となるパターン把握に努めている。時に排泄時の声掛けには傷つけないように配慮している。	○	「失敗させない」を意識しすぎるとスタッフはそれだけにこだわってしまうので「失敗したあとのケア」も大切に考えるようスタッフには指導していきたい。排泄だけではなく、その人を具体的に捉えて、できる能力を活かせるケアのための指導にも取り組みたい。

グループホーム 倫尚園

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には入浴の時間は決まっておらず、午前、午後、夜間いずれも入浴できるようにしている。自発的な入浴の希望がないため午後の入浴が多くなっている。入居者同士で洗い合えるよう支援している。		
60	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	夜間入浴や日常の活動、脳の覚醒状態等を考えて安眠の支援に努めている。また、寝場所もその人の状況に応じて居室や座敷に布団を準備するようにもしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	お墓参り、面会、外出、床漬け作り、カラオケスナック、炊事への参加等、御本人の希望を聴きながら楽しみのある生活の実現に努めている。	○	身体的な重度化に対して、外に出る機会をどのように作っていくかが課題となっており、スタッフと協議して1人でも多くの方の支援に結び付けていきたい。
62	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	可能な方はお金を所持してもらっているが、もの盗られ妄想の安因となる場合もあり、実際は3名程である。買い物に行った時にはお金を渡して自分で払い、おつりをもらうという支援をするがあまり持つことを好まない方が多い。		
63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に散歩や買い物ドライブ等をして屋内ばかりの生活で入居者の方のストレスがたまらないように努めている。	○	身体的に重度化している方々の外出機会を可能な限り御家族、ボランティアの方々と協力して実現していきたい。
64	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年間行事の中でお墓参りや個別的な日帰り旅行等希望される場所に行けるよう努めている。		

グループホーム 倫尚園

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	複合施設の2階に公衆電話もあり、内線を通じて外線の取次ぎをしたり、可能な限り外部との交信ができるようにしている。届いた手紙の取次ぎはしているが自ら手紙を書くことは少ない。		
66	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問された方々がゆっくり過ごせるように居室、座敷等、場の提供や飲み物の準備をするようにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
67	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束への意識を高めるために勉強会や研修を実施している。また日常的な生活場面でもこれは拘束か否か話すようにしている。特に言葉による拘束には注意してスタッフと話し合うようにしている。		
68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室の鍵はかけることはない。庭にも自由に出入りできるよう開放している。	○	構造上、玄関の入口が自動ドアとなっており、中からはスイッチを押さないと開かないので電源を落として主導にする等工夫をしてスタッフの認識を高めていきたい。
69	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	入居者方を言葉で呼びとめる行為は拘束と考えている。入居者方の行動をさりげなく見守り、必要な方はチェック表を作成して意識するようにしている。		
70	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険を伴う物品の保管場所は取り決めをしているが、包丁や洗剤等、取り扱う場合はスタッフと一緒にするようにして入居者方には自分で使えるようにしている。		
71	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	マニュアルを作成して、予防や対応ができるように努めているが、スタッフの知識や技術がまだ不足している。またスタッフもそのことに不安を感じている。	○	緊急時の対応に関してのスタッフの知識が乏しく、研修や自己学習の機会や書籍の提供をしていきたい。

グループホーム 倫尚園

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	対応や進路に関してはマニュアル化しているが定期的な訓練はできていない年1階の救急訓練はしているが、それだけでは不足している。		
73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	複合施設全体として定期的に避難訓練を実施している。地域の方々の協力を得て訓練を実施することもある。		
74	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	御家族には起こり得るリスクについては十分に話し、そのことに対するケアの方向性についても説明をしている。契約書にも示しているが「その人の暮らし」を大切にリスクは必ずあることへの同意を得ている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	状態に変化がある時には複合施設の看護師やかかりつけ医にすぐ相談をして対応するように努めている。		
76	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書をファイルしてスタッフが見れるようにして特に注意を必要とするものは注意事項を示して個別の記録にとじている。薬も飲みやすい形態に工夫している。		
77	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	薬だけに頼らず、運動や腸のマッサージ、オリゴ糖、牛乳、バナナ、野菜ジュース、大麦若葉、きなこ等で便秘の軽減を図るよう努めている。		

グループホーム 倫尚園

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○ 口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	できることは御本人にしてもらいながら口腔ケアを実施しているがスタッフの「口腔」への関心がうすく感じられる。	○	口腔機能やケアについての重安性についてスタッフがもっと関心をもてるよう訪問歯科の先生や外部の研修等の学習の場を確保していきたい。
79	○ 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に応じた食べやすい形態での食事の提供や代替品の準備等により摂取量を確保し、水分も記録につけたり好みの物を提供して自分の意思で飲食できるようにしている。		
80	○ 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	法人全体とし専門職を中心にマニュアルが作成されている。感染予防の委員会もあり活動を行っている。		
81	○ 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理は複合施設の厨房で行っているため食材の管理はしていない。食器や調理用具は栄養士の指導のもと衛生管理に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
82	○ 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関には季節の花や写真等を飾ったりカメやカニ等を飼育したり、少しでも訪問しやすいように工夫している。		
83	○ 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	空間には「暮らし」が感じられるものになるよう配慮している。TVやスタッフの声、足首等にも日常的にスタッフと話したり、一見雑然としているが必要なものが手の届く場所に置いてあったりと工夫をしている。		

グループホーム 倫尚園

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂、座敷、居室、談話コーナー等気分や雰囲気、状況に応じて誘ったりして心地良く暮らせるよう努めている。		
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンスや仏壇等持ち込みに対しての制防はなく、できるだけ馴染みのあるものを持ち込んでいただくようにしている。		
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	排煙や窓、ドアの開放を随時行うようにしている。特に冷房がききすぎないように注意している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ、浴室には手すりが設置されている。居室内でも安全バーやポータブルトイレ等できるだけ御本人でできるような環境づくりに努めている。		
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレには「便所」と書いたり、目印をつけたりしている。食事の提供方法も1鉢に分けたり、1品ずつ置いたり、食器とのコントラストを考えたりと自立できるよう工夫している。		
89	建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	非常口の外にベンチを置いたり、庭の東屋に座って話をしたり、日光浴、夕涼み等も行っている。		

.サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		ほぼ全ての利用者の
		○	利用者の2/3くらいの
			利用者の1/3くらいの
			ほとんど掴んでいない
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	毎日ある
			数日に1回程度ある
			たまにある
			ほとんどない
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		ほぼ全ての利用者が
		○	利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
		○	利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		ほぼ全ての家族と
		○	家族の2/3くらいと
			家族の1/3くらいと
			ほとんどできていない

グループホーム 倫尚園

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		ほぼ毎日のように
		○	数日に1回程度
			たまに
			ほとんどない
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	大いに増えている
			少しずつ増えている
			あまり増えていない
			全くいない
100	職員は、生き生きと働いている		ほぼ全ての職員が
		○	職員の2/3くらいが
			職員の1/3くらいが
			ほとんどいない
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
		○	利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての家族等が
			家族等の2/3くらいが
		○	家族等の1/3くらいが
			ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・身体的、認知的な重度化に対して、より「その人らしく」生活が継続できるよう個別対応に取り組み、個別な介護手順書を作成して統一したケアの実践に力を入れている。
- ・活動プログラムは多様に準備して活動の計的な成功よりも「その人らしく」あるための内容や手段に力を入れ取り組んでいる。
- ・入居者のライフスタイルに柔軟に対応できるよう多様なローテーションを組み、ケアを実践している。
- ・当ホーム主催で外部のグループホームさんと合同勉強会を開催し、人材の育成やスタッフ及び事業所における抱え込みによるストレスの緩和とケアの質の向上に取り組んでいる。